



まほろん通信

VOL. 57

(平成 27 年 10 月 1 日発行)
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
ホームページ [まほろん](#)



〈郡山市立赤木小学校 5 年生の皆さん〉

ようこそ まほろんへ！

福島県文化財センター白河館（まほろん）は、開館から 14 年、「見て・触れて・考え・学ぶ 体験型フィールドミュージアム」として、児童・生徒、公民館等で学ぶ団体から研究者の方まで、年齢・職業を問わず幅広くご利用いただいています。特に、団体でまほろんをご利用される皆さんには、事前のご予約をお勧めしています。まほろんの職員が、皆さんの展示見学や体験学習をサポートします。

まほろんには、県内の遺跡からの出土品や、発掘調査成果をもとにした常設展示と野外展示があります。また、年 4 回程度、テーマを決めた企画展を開催しています。これらの展示について、皆さんをご案内して見学することができます。

まほろんの大きな特徴である、文化財等を活用した体験学習も好評です。勾玉づくり体験や火おこし体験、本物の土器にふれる体験など、まほろんでしか行えない体験活動がいっぱいです。これらの体験活動では、まほろんの職員が補助しながら、楽しんで歴史の学習を行うことができます。この他にも多くの体験メニューを準備してお待ちしています。体験メニューに関する詳細については、まほろんのホームページをご覧ください。

ご利用される皆さんからのご相談に応じて、展示見学と体験学習を組み合わせたプランなどをご提案させていただきます。団体でご利用される際には、団体担当までご相談ください。まほろん職員一同、皆さんのご利用をお待ちしています。

体験学習

「カラムシから布をつくろう」の様子

カラムシは、布を織るための原料として、現在でも福島県昭和村などで栽培されています。カラムシを使用した今回の講座は、6月28日(日)「刈り取り」、7月19日(日)「糸づくり」、8月30日(日)「布づくり」の全3回行いました。

受講者の皆さんは、カラムシの刈り取り後、表皮を剥いで繊維を取りました。次に、この繊維を撚り合わせて約15mの糸をつくりました。この糸を用いて、縄文時代から使用されていた「もじり編み」

「親子で石器をつくろう」の様子

8月1日(土)に郡山女子大学短期大学部准教授の會田容弘氏を講師として、石器づくりの講座を実施しました。当日は、10名の方が参加し、會田先生



＜會田先生と参加者＞

先生の指導のもと、頁岩という石を材料として石器の製作・使用体験を行いました。

製作体験では

で、携帯電話ほどの大きさの小袋を編みました。

このように、受講者の皆さんは、カラムシの「採取→加工→製作」までの工程を体験しました。受講者の皆さんが糸を撚る姿や小袋を編む手さばきは、まるで職人のように見えました。



＜小袋編みの様子＞

「ハンマー(花崗岩)で打つポイントや打ち方が難しかった。」「うまく打ち出せると爽快ですね。」、使用体験では「金属の包丁と同じくらい切れる!!」などの感想が聞かれました。人類がつくった最古の道具のひとつである「石器」づくり、楽しんでもらえたのではないのでしょうか。



＜石器で肉を切る様子＞

「古代の染色にちょうせん」の様子

8月8日(土)に、「古代の染色にちょうせん」を行いました。まほろんで育てたタデアイの生葉から染液をつくり、絹布を染めました。午前と午後の2回行われ、合計18名が受講しました。

受講生の皆さんは、日焼け・虫よけ対策をして、青々と茂ったタデアイを剪定バサミで刈り取りました。収穫したタデアイは、水洗いして葉をちぎり、水を張ったボールの中で揉んでいくと開花準備のために葉の中に蓄えられた染色成分が溶け出して、深

緑の染液が出来上がります。この洗液にビー玉と輪ゴムで絞りを加えた絹布を浸しては空気にさらし、太陽光を当てた後に、余分な色素を洗い流して輪ゴムを取ります。浅葱色の地に白い四角や波状の絞り文様が浮かび上がると、受講者の皆さんの笑顔が広がりました。



＜刈り取りの様子＞

まほろんイベント

「まほろん夏まつり」の様子

7月26日(日)に、まほろん夏まつりを行い、551名のお客さまにご来館いただきました。

今年の夏まつりは、昭和の縁日をテーマとし、妖怪見世物小屋や射的、かき氷体験などを行いました。なかでも、妖怪見世物小屋は子供たちに大人気で、福島県内に残る妖怪伝承に関する説明を真剣な表情で聞き入っていました。

また、恒例のまほろん3種競技では、新種目として「木の実拾い」が加わり、例年以上の盛り上がりとなりました。そのほか、森の塾生による特別展示なども行いました。



＜「妖怪見世物小屋」の様子＞

企画展示案内

ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財—震災からの救出活動と再生への取り組み—」

会期：平成27年10月17日（土）～12月6日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

東日本大震災により、福島県は地震・津波・原発事故という三重の被害を受け、4年半が経過した現在も多くの方が各地で避難生活を強いられています。

県内では、各種の文化財も多大な被害を受けましたが、震災発生直後から関係者による救出活動が行われ、被害を受けた文化財の再生に向けて、様々な取り組みも行われています。

今回の企画展は、文化財を守るために展開された



＜須賀川市長沼地区での資料救出活動の様子＞

文化財講演会・研修会

企画展示とのコラボレーション

ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財」にちなんだ上映会及び講演会等が目白押しとなっています。

展示開幕日の10月17日（土）は、文化財ビデオ上映・講演会「被災地の伝統芸能」です。浪江町の「室原の田植踊り」の記録映像を上映するとともに、東日本大震災によって存続の危機に瀕している伝統芸能を守る取り組みについて、民俗芸能学会福島調査団長の懸田弘訓氏にお話しいただきます。

11月28日（土）は、文化財講演会「災害痕跡を掘る」です。発掘調査によって明らかにされた火山



＜室原の田植踊り＞



＜震災翌年に東京で上演された相馬市磯部の神楽＞

4年半の取り組みを振り返るとともに、ふるさとの文化財を守り、後世に伝えていくことの意義について考えます。

文化財の救出と再生への取り組みのうち、今回は須賀川市長沼地区で発生した藤沼湖決壊による文化財への被害と、その救出活動、さらに津波による被害と原発事故による避難の中で、地域の文化財を守るために展開される南相馬市の活動などについて、関係資料とあわせて紹介します。

また、震災で甚大な被害を受けながらも、伝統と地域のきずなを守るため継承されている民俗芸能などの無形の民俗文化財についても紹介し、災害と文化財について地域の視点から改めて見直します。

災害の状況や、災害前後の社会の変化、そして災害からの復興を遂げた過去の取り組みについての講演です。全国有数の火山県である群馬県において、多くの災害遺跡の発掘調査に携わってきた小島敦子氏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）が解説します。

定員はいずれも60名で、事前申し込みは不要ですので、ぜひお出でください。

10月～12月の研修

10月22日（土）・23日（日）には、「文化財保護指導者研修会」が、白河市内で開催されます。

11月7日（土）には、文化財の保全や修復技術とその過程の記録方法について学ぶ文化財保護・活用専門研修「文化財の保全と記録技術」が開催されます。岩手県立博物館において、東日本大震災により被害を受けた文化財の保全や修復の最先端で活躍される赤沼英男氏に、ご指導いただきます。

また、12月5日（土）には「無形の文化財研修」を開催します。受講には、いずれも事前申し込みが必要です。

今後のまほろんイベント

秋・冬のまほろんも、楽しきてんこもり！

★まほろん秋まつり 11月3日（火/祝）

★まほろん感謝デー 12月6日（日）

★まほろん双六大会 1月17日（日）

★まほろん冬まつり 2月14日（日）

まほろん感謝デーは、今までのまほろんイベントとは一味違います。多彩な楽しい企画を予定しています。

各イベントの詳細は、決まり次第、ポスターやチラシ、ホームページ等でお知らせします。

まほろんで楽しく過ごしましょう！



シリーズ収蔵品紹介 21

小野町西田H遺跡出土の縄文土器

西田H遺跡は、平成14・15（2002・2003）年にこまちダム建設に伴って発掘調査が行われた遺跡です。



<出土状況>

写真の土器は、縄文時代早期後葉（今から約7,000年前）の縄文土器で、竪穴住居跡東隅の床に逆さまに伏せられた状態で出土しました。

口径30.3cm、現存高38.5cmの深鉢形土器で、底部は残っていませんでした。土器の内外面には筋状の条痕があり、口縁部には棒状工具でひっかいた短沈線が矢羽根状に集合しています。内外面のところどころに煤の付着が認められるので、もともとは煮炊きに用いられた土器だったと思われます。

土器の内部からは、破損した土器片を利用して円盤状に加工した土製品が見つかりました。

土器を伏せて、欠けた底の部分にこの土製品を蓋として被せていた可能性があります。

西田H遺跡のような土製品の出土例を調べてみると、県内では鹿島遺跡（会津美里町）や大槻八頭遺跡（郡山市）で確認されています。

どのような目的で底が欠けた土器を伏せ、どんな行為が行われていたのかは謎に包まれています。

（学芸員 柿沼 梨沙）



まほろんショップから

7月から、新商品の販売を始めました。中でもおすすめなのが、「縄文発掘セット」です。固めてある砂の中から土器などを掘り出します。これで、あなたも考古学者！？



ご利用案内

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月3日）

入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。